

NPOと市民をつなぐ

発行者：西宮市・NPO等公益活動市民団体啓発事業実行委員会

発行日：平成31年3月1日

みやしるべ

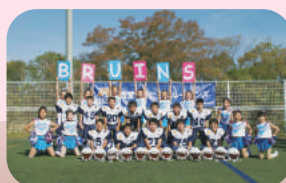
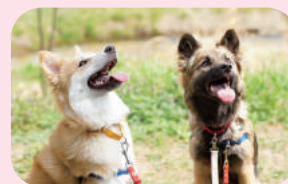


March 2019

NPOがNPOを訪れた

NPO訪問記

- アットホームホスピス _____ P5
- AFRIKCLEAN _____ P6
- 架け橋 _____ P7
- 日本心理教育ラボ _____ P8
- はらっぱ _____ P9
- ペット・フォー・ライフ・ジャパン(PFLJ) — P10
- 西宮っ子還暦式運営協議会 _____ P11
- 西宮フットボールクラブ _____ P12
- ボランティアグループ「ゆりの会」 _____ P13
- 「みやしるべ」のバックナンバー _____ P14



特集 西宮市長との対談

「思いもよらないNPOがあると楽しい」

石井市長 × NPO = 😊



石井市長 × NPO = 

「思いもよらないNPOがあると楽しい」



NPO法人 コミュニティ事業支援ネット (NPO部会長) 東さん

東 本日は「NPOと行政との協働会議」(注1)の幹事メンバーで、市長にお話を伺いに参りました。

「こみサポ」と呼ばれている私の団体では、西宮市市民交流センターの管理・運営や多様なセクターの中間で活動を支援する事業を展開しているほか、「NPOと行政との協働会議」の事務局業務も担っています。

協働会議では、毎年、市内のNPOと市の関係者が協働をテーマにした意見交換を行っており、昨年度は市職員の方々から「NPOについてよく知らない」というお声を受けて、NPOからの提案により市職員との合同研修会が実現しました。

などを伺い、私たちの今後の活動の参考にさせて頂いただけばと思います。よろしくお願ひします。

—NPOに対するイメージ

森下 私は、主に障害福祉、特に精神障害に関する支援を行っているNPO法人で活動しています。自分の団体しか知らなかったのですが、この協働会議でNPOの中にも色々な活動があることを初めて知りました(注2)。

市民の皆さんにとって、NPOはまだまだ馴染みがないように感じのですが、市長はNPOに対してどのようなイメージをお持ちでしょうか？

市長 NPOにはとても期待していますよ。

NPOは、「NPO法人」という法人格を有する組織に限られるわけではありませんよ(注3)。地域の自治会、学校法人、医療法人、社会福祉法人も広い意味でNPOと言えます。これらは、株式会社でも行政でもない立場で、昔から存在しているというイメージを持っています。以前は、社会福祉法人や医療法人など、国が定めたハードルを越えたNPOでないと、法人としての組織化や税の優遇を受けることができませんでした。

しかし、阪神・淡路大震災



NPO法人 NicCL 西宮暮らしやすい地域をめざす会 森下さん

後に特定非営利活動促進法(いわゆる「NPO法」)が施行され、これまで任意で活動してきた団体が法人格を持つことができるようになったことと、良い意味で国や自治体の受け皿としての役割を担うようになったと考えています。それはとても良いことですし、行政にとってもありがたいことです。

お金儲けを目的にせず、個人に依存することもなく、行政では思いもよらないような活動を組織として行うNPOが、日本中にどんどん広がっていけば楽しいですね。

森下 良い印象をお持ちなので

市長 良い印象を持っていますよ。

NPO法人の設立等には一定の要件を伴いますが、NPOは基本的に設立も解散も自由に行うことができます。それはこの社会における本来の

姿だと思っています。

森下 私が所属する団体が立ち上げされたときも、すぐに社会福祉法人になれるわけではありませんでしたので、NPO法人という制度ができたからこそ、私たちも組織として活動できるようになりました。

その点では法に助けられたと感じています。

―信頼できるNPOとは

廣田 私は、障害者の生活支援や日中の居場所の活動支援をしています。

石井市長がNPOに対して好印象を持っていただいていることが分かり、安心しました。一方で、NPOの不正に関する記事が新聞等で掲載されると、同じNPOとして残念に感じるところですが、市長にとって信頼できるNPOとはどのようなものでしょうか？



NPO法人
障害者生活支援センター遊び雲
廣田さん

市長 不正の件については、たまたまそれがNPOであったというだけですよね。場



合によっては株式会社でも一般社団法人でもあり得ることだと思えますよ。

NPO法人は比較的簡便に設立できる反面、そのユルさを悪用されてしまう場合があります。一方で、それを取り締まろうとすると、公の管理のもとで厳しくチェックすることになり、窮屈になってしまいますよね。

東 不正に対しては、内部で監査していくことも必要ですね。私たちの団体は、新たに内部監査の制度を運用しています。

市長 それは一種の自浄作用が働いていることの表れだと思います。一つひとつの支出をインターネット上で公表するという方法も考えられます。



NPO法人
兵庫県不動産コンサルティング協会
田中さん

―NPOとの協働のあり方

田中 我々の団体では当初、不動産という切り口で活動して

少なくとも私自身は、特定のNPOによる不正がNPO全体のイメージを悪くすることはないと思っています。

東 情報公開自体がNPO法で定められていますし、信頼できるNPOには積極的な情報公開が求められますね。

いましたが、相続や後見人など様々な分野に活動が広がってきています。

マンション管理でも子育て分野でも専門的な知識を持っているNPOが沢山あるので、それらを市の業務にうまく活かすことはできないでしょうか？

市長 行政だけで市の課題のすべてに取り組めるわけではありませんで、NPOの皆さんにお任せできる業務があれば、どんどんお願いしたいと思っています。100ある課題のうち30でも50でもお願いできれば、私としてはとても助かります。

一方で、高い専門性を持つNPOに業務委託した場合、行政がその業務のチェック機能を果たすことができるのか不安があります。

そのため、ある業務を一貫して委託するのではなく、特定の一部分を委託するというのが実現しやすいと思います。

―相互理解をめざして

白石 先日、NPOの仲間と話しているときに、「市職員さんにはあまりNPOのことを知らないよね。」と話題になりました。例えば、私が所属しているNPOスポーツ団体を知っている職員の方は少ないと思います。今年(2018

年)の3月に開催された「NPOと市職員による合同研修会」で一緒にあった若手職員さんから、「あるお母さんから電話で『息子が運動会を控えていて、かけっこが遅いのでなんとかしたい。』と言われる困ってしまっただけ」という話を聞き、私たちのクラブのことを知ってくれていれば、お母さんの期待にも応えることができたのに：と惜しい気持ちになりました。



NPO法人
武庫川スポーツクラブ
白石さん

そのことから、今後はNPOと行政との接点をもっと増やしたいと思うようになりました。

市担当者 合同研修会に参加した職員からも、「NPOと市職員との距離が近くなり、お互いの考えがよく分かった。」という喜びの声がありました。

市長 NPOと市の職員が近い距離で話すことは、お互いを理解することに繋がりますし、新しいアイデアが生ま



NPO法人
西宮市マンション管理組合ネットワーク
広尾さん

れることもあってとてもいいですね。
白石 あのような機会が今後増えていくことを期待しています。
— 伝わる広報について
広尾 私たちの団体は、市主催のセミナーの中で、マンション管理に関するワークショップや事例紹介を行う機会をいただいています。



市内には積極的に活動する団体も多いのですが、各団体が主催するイベントやセミナー等の情報を市民に届けることは難しい、と感じています。各団体のホームページを超えるインパクトのある広報手段というのはないでしょうか？
市長 市としても、今年の西日本豪雨の際には情報発信の難しさを痛感しました。
断水になったマンションが多くあり、数百件の問い合わせが市に寄せられたのです。停電の影響でマンション上階まで水が来ていないだけで、目の前の公園や駐車場で蛇口をひねれば、普段どおり水を出すことができましたのですが、もしも日頃から市が情報発信

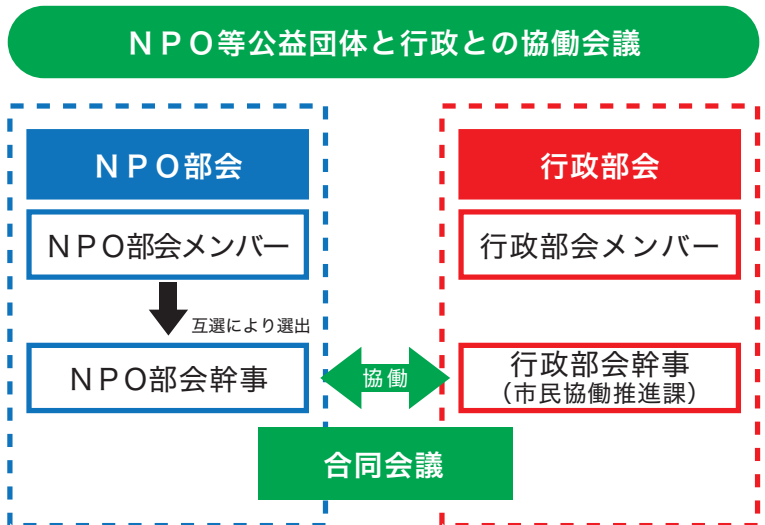
(注1) NPOと行政との協働会議とは

西宮市は、福祉、環境、教育、スポーツ、まちづくりなどの様々な分野で公益的な活動に取り組むNPO法人や市民交流センター登録団体(以下「NPO等団体」という。)との協働を促すため、平成18年度に、NPO等団体と市が定期的に意見交換を行う「NPOと行政との協働会議」を設置しました。

NPO等団体で構成される「NPO部会」では、市との協働などをテーマにメンバー同士が意見交換や情報交換を行うほか、市やNPOに関する情報共有を行っています。

また、NPO部会の幹事は、市との『合同会議』において協働施策に関する議論を随時行っており、NPO関係者と市職員を対象にした合同研修の開催など、合同会議での議論をきっかけに実現した取組もあります。

(NPOと行政との協働会議組織図)



(注2) 西宮市内のNPO法人数

166団体(2018年12月31日時点)

(注3) 西宮市市民交流センターの登録団体数

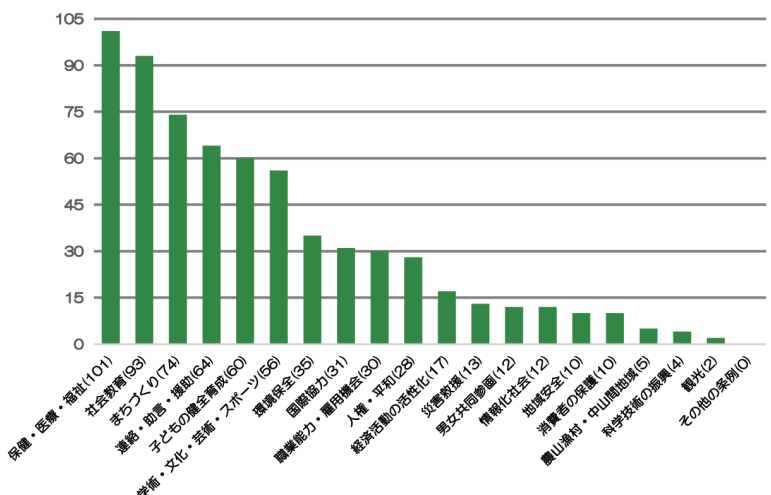
35団体(2018年12月31日時点)

(注4) NPO等公益活動市民団体啓発事業について

「NPOと行政との協働会議」のNPO部会メンバーの有志により結成された「NPO等公益活動市民団体啓発事業実行委員会」と市が協働し、毎年、NPO等公益活動市民団体の活動を広く市民の皆様に周知するための事業を実施しています。

今年度は、「NPOフェスティバル」(3/23市民交流センターで開催)の企画・運営と本誌「～NPOと市民をつなぐ～みやしるべ第5号」の編集・発行を行っています。

(市内NPO法人 活動種類別の団体数)





NPO法人
コミュニティ事業支援ネット
柏本さん

に努め、市民の皆さんの理解
度が高まっていれば、このよ
うなことにはならなかったと
思います。
そういう意味では、有益な
活動については市が積極的に
名義後援を行い、市政ニュー
スなどで広報支援を行って
いきたいと思っています。
広尾 今後はどのような広報
ツールをお考えですか。
市長 魔法の杖はないと思いま
すが、情報を垂れ流しにして
いるだけでは、この情報化社
会の中で必要な人に必要な情
報が届かずに終わってしまう
ことが課題と感じています。
そのため、どのような情報が
SNS等で拡散されやすいの
か、リツイートされやすいの
かということを研究・分析し
ています。

—市長への手紙

柏本 私は、NPO等公益活動
市民団体啓発事業実行委員会
(注4)で事務局業務を担当し

ているのですが、NPOの声
を市長にお届けするにはどの
ような手段がありますか？
「市民の声」や「市長への手紙」
という仕組みを耳にしました
が、NPOも意見を挙げてよ
いのでしょうか。
市長 もちろんです。いただ
いた意見にはすべて目を通し
ています。
その中で、「これはすぐに
対応しなければならぬ」と
いう課題があれば、私から担
当課へ指示を出して対応して
います。その他にも広聴会を
開催したり、様々な会議に出
席したりしているのです、その
時に声を掛けていただいても
いいと思っています。
柏本 ありがとうございます。
毎年どれくらいの意見が寄せ
られているのですか？
市長 以前は年間800件程度
でしたが、私が市長になって
年間1000件を超えるペー



市役所本庁舎1階総合案内所横、
各支所・市民サービスセンター、
アクタ西宮ステーションに設置

スになっていきます。多くの意
見が寄せられているのはとて
も嬉しいことです。
—シチズンシップ
東 最後に、市長からひと言お
願います。

市長 NPOに限らず市民の皆
さんに訴えていきたいことは
「シチズンシップ」を持つこと
です。
シチズンシップとは、「公
共に対する責任」と私は認識
しています。市民に責任を課
すことに批判的な意見を持つ
方もいるかもしれませんが、
私たちはひとつの共同体とし
て生きているのですから、市
民が共同体意識を持って何か
をするということは間違いな
く良いことだと思っています。
その中で、共同体の一つと
して、NPOは重要な担い手
になるだろうと考えています。
東 市長、今日はお忙しいなか、
ありがとうございます。

2018 (平成30)年12月20日



平等に隣りあい 「その人らしく生きる」を手伝う



がんって、なに？

NPO法人
アットホームホスピス
理事長 吉田 利康

連絡先
〒663-8106 西宮市大屋町24-8-103
TEL: 0798-65-2201
Mail: athome_info@athomehospice.net
H P: [アットホームホスピス](http://athomehospice.net) 検索



生活の場から生老病死をみつめなおし、市民が市民目線でホスピスケアを啓発。2009年設立。



「ホスピス」という言葉を聞くと「終末期医療」や「看取り」だけのイメージが強くなり、けれども人間の最期につながる「命全体」を見つめる活動をされているのが、アットホームホスピスです。理事長の吉田利康さんにお話を伺いました。

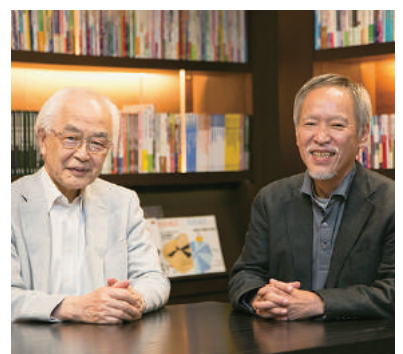
— 設立の経緯

吉田さんが医療に疑問を持ったのは、奥さんが急性骨髄性白血病で亡くなったことがきっかけです。1999年当時は、地域医療やセカンドオピニオンなどは主流でなく、大病院に入院すると「最期は家で」という思いは叶えられない。それを主治医と話し合い、特例で帰宅し、奥さんを看取られました。主治医が在宅医療に理解があったからよかったものの、人の暮らしに視点を置かない医療と市民生活との乖離を強く感じたそうです。2004年に立ち上げた「おおぞらいぞく塾」で活動をグループ化して始められ、2009年にはNPO法人格を取得し「アットホームホスピス」設立

に至りました。

— 多岐にわたる活動

看病に始まりグリーン（悲哀）を通過した遺族の立場から、市民目線で家庭介護や看取りを問い直し、実践啓発する活動へと範囲を拡げていきました。その中でも、誰にもわかりやすく伝える方法として絵本を制作し、いろんな方々とつながっています。その中の一冊『いびらのすむ家』のあとがきを読んで、私自身の勘違いに気づきました。そもそも「ケア」とは技術を一方的に提供する事ではなく、その人と平等な関係で「隣り合うこと」。ぶつかり合うことも多い私にとって、隣り合う関係は理想です。絵本にはいつもの暮らしの中で、死期が近かろうと健康であるうと関係なく、家族がお互いを大事に思い合う場面が描かれています。吉田さん曰く、「食欲がないとなったら、医療者は器具や薬で対応しようとするが、例えば子どもや孫が見舞いきたら食べられた！と嬉しいこともある。日常生活の中でこそ人らしく生きられる。ホスピスとは、『その人らしく生きる』を手伝うプログラム全体のことを言い、場所を選ばない」とのこと。吉田さん一家が奥さんを「家」で看取られた経験からくる言葉は説得力が



あります。情報交換のために月一回の談話会、啓発絵本の展示会、障害・介護・リハビリ・食などに関する講演会、地域連携のための野菜朝市、リラックスマスするためのコンサートなど、活動は広範囲で、当然ながらいろんな分野の方々とも連携しています。

— 課題と展望

高齢社会に突入した今、次世代にしっかりと伝えていくのが目標だそうです。

吉田さんはおこがましいけれど、と前置きして語ったのは「伝えていくには、伝えるものを持たないと伝えられません。言い換えれば、伝えるとは私たち自身が何を持っているのかと問われているのと同じです。と、むずかしい課題です」と。ぜひHPなどで活動の様子をご覧ください。紹介しきれないことがいっぱいあります。
(訪問者 障害者生活支援センター 遊び雲 廣田)

アフリカはテレビや新聞に出ている遠い国ではありません。

NPO法人

AFRIKCLEAN

理事長 LUKUMWENA NSENDA

連絡先

〒662-0865 西宮市神垣町5番30-201号

Mail: afrikclean@gmail.com

衣食住環境の改善・人材育成を推進し、グローバルスタンダードの倫理感の意識を高めることを目的に発足。

「グローバルスタンダードの倫理感をめざして」
1960年は、アフリカで多くの国が植民地支配から開放された「アフリカの年」。それから60年の間、アフリカ諸国の経済開発、貧困軽減が叫ばれてきましたが、まだまだ発展途上で、外国企業の進出が少ないのが現状だそうです。アフリカ諸国のビジネスでは、多くの場合で賄賂が発生するというマイナスの特徴がその背景にあります。「AF



2018年2月に設立されたばかりのNPO法人AFRIKCLEAN(アフリクリン)の理事長 LUKUMWENA NSENDA(ルクムエナ センダ)さんにお話を伺いました。高身長でエレガント、おしゃれな服の着こなしで、「サポール精神(おしゃれで優雅な着こなし身のこなしで誇り高く、国や人種を超えて人々を魅了する精神)」を体現するセンダ理事長は、流暢な関西弁で、活動に対する想いを話されます。



「力を入れて取り組む事業」
アフリカ諸国では、街ごとに屋台の立ち並ぶ市場がありますが、その衛生環境は良いものではないため、そこへアフリクリンが設計した店舗用コンテナを送って、現地で活用するという計画です。買い物客と商品であふれている市場に、コンテナを並べて区画を作り、屋根に設置したソーラーパネルが市場に電力を供給することで、環境の良

「AFRIKCLEAN」という団体名には、「アフリカ諸国の人々の心や環境をクリーンにして倫理感を向上させて、グローバルスタンダードな環境を醸成したい」という想いが込められています。その上で、アフリカ諸国の人材育成に寄与することも目標のひとつだそうです。アフリクリンの世界観の大きさに驚かさず、一体どのような事業を展開されるのかを質問してみました。

い市場を作ります。そしてもう一つ、電気の安定供給がなされていない地域では、トラックや車の屋根にソーラーパネルを設置して、「電気を供給する移動コンビニカー」とする計画で、発電した電力は、ディスプレイを使った教育環境の整備にも使われます。こちらは、2018年4月に1号機が完成したばかりですが、まだまだ実験段階ということですが、1つ事例ができることで、人々の意識が変わることが期待できる画期的な取り組みです。今後は1号機を稼働しながら、地域のニーズを取り入れた改良を行い、台数を増やしてゆくことを目指されています。

「これからの展望」
ソーラー電源供給車は、日本の有名電機メーカーと共同して開発されたそうです。AFRIKCLEANでは、さまざまな企業と一緒に活動、活動の幅を広げていきたいと考えておられます。NPO活動と産業界の繋がりを、アフリカまで届けようとしており、西宮の企業や学生、市民の皆さんにぜひ知ってもらいたいNPOです。

「訪問者 NPO法人 コミュニティ事業支援ネットワーク 柏本」

NPO法人 架け橋

理事長 吉井 マリ



連絡先

〒663-8215 西宮市今津水波町13-1
TEL: 0798-78-3896
Mail: info@kakehashi.or.jp
URL: http://npo-kakehashi.or.jp

最後まで自分らしい人生を送るために、新しい「終活」を提案し支援するNPO。2018年5月設立。



「初恋の人に会ってみたい」
きっかけは母のひと言でした。「お母さん、今いちばんしたいことって何？」と尋ねたところ、75歳の母は「私ねえ、高校の時の初恋の人に会ってみたいの」。吉井さんは、そう答えた母の気持ちを思い図っているうちに、高齢者の多くがやりたいことや行ってみたくらいこと等、様々な願いを自ら封じ込め、他人との関わりも徐々に薄くなっている現状に気がきました。何とかこれを変えてあげられないか、その思いが2018年5月「NPO法人架け橋」の設立へと向かいました。

「終活」に行きつく
以前、不動産業に携わっていた吉井さんは、相続の後に空き家が増えている街の景色に、漠然とした不安を感じていました。こうした空き家を有効活用できないか、例えば独り身の老人が気軽に集える場にできないか等を考えながら仕事をすると、問題の根っこは自らの相

続に不安を抱いている人達が多くいる現状に突きあたりました。ならば、その不安を取り除くお手伝いはできないだろうか、そこからのスタートでした。最近よく耳にする「終活」です。その理念と目的に賛同した仲間と共にNPO法人となって、講習会や座談会を開いて参加者の様々な相談に応え、エンディングノートの記入法を教えたり、税金や手続き等の相談には専門の先生を紹介したりする活動をいま広げています。

「心配事の次は楽しい事を」

相続の心配事が無くなれば、その人が封じ込めていた願いや望みを叶えさせてあげようというのが、次の活動です。たとえば普通のツアー会社はまずやらない、体が不自由で外出もままならない人達に介護者を付けて専用バスで希望の場所に連れてゆく旅行企画や、短時間でも他人の役に立っていると実感できる就労の場を提供する、等々です。最近では、元気なうちにきっちりお化粧をして自分の写真を撮ってもらおう「遺影写真撮影会」の企画も進んでいます。

「礼儀正しく、ぐいぐいと」

「そのためには、これから

「架け橋会員」を増やしていきたいのです」と吉井さんは語ります。会員には、仕事のパートナー（各種士業など）と一般市民の二種類があります。終活ニーズのある市民が気軽に「架け橋」に立ち寄り、ニーズに応じた対応や専門家



紹介を通じて会員となってくれば、今後のセミナーの参加費割引や相続手続きの優遇、旅行や撮影会の参加費還元する仕組みです。こうして「架け橋」ファンとなってくれる会員が増えてくれば、事業も安定していくとの未来図を描いています。

やりたいことは「礼儀正しく、ぐいぐいと」が吉井理事長の信条。これからの発展が楽しみなNPOです。

（訪問者 武庫川スポーツクラブ 白石）

NPO 法人
日本心理教育ラボ
 理事長 岩崎 恵美

連絡先
 〒663-8151 西宮市甲子園洲島町8番19号
 Mail : info@koko-lab.info
 URL : https://www.koko-lab.jp/

心の健康を支えるため心理療法で各種支援
 事業を行う。2012年5月設立。



ココロ教育を未来の力に



「NPO 法人設立のきっかけは心理学はやめられない!と、いざいざと笑って語って下さった岩崎理事長と理事のお二人。まず岩崎理事長に伺いました。『もともとは、私がカウンセラー(心理相談員)として学んできた事を活かして依頼人様にカウンセリング(相談援助)するのが目的でしたが、まずその前に依頼人様に送り出すカウンセラーをレベルアップする教育が必要だと感じたのです。』その為にNPO 法人となりました。ここは明るい雰囲気、サロンの心が落ち着き、心理学をきちんと学んだ方が相談にのってくれます。相談者の方はどうやって来られるのでしょうか? 『ホームページでも検索できますが、ほとんどは口コミのようなケースです、信用営業というのでしょうか(笑)。人間関係や心の病をカウンセリングし、必要であれば病院とも連携していますのでご紹介も致します。』これなら安心して相談にいきます

ね。そしてまた新たな事業にも挑戦されています。『組織活性化事業とは世の中には元から悪い人はいない、環境が悪い人を作るというブリーフセラピー療法の考えを基にした新しい事業です。例えばある会社で出社拒否などの問題が起きると、たいていはその社員に問題があると考えるが個人へのアプローチに終始しがちです。組織活性化事業では職場の背景にどのような問題が潜んでいるかを掴みそれを解決することが出社拒否を無くすることにつながると思っています。具体的には、まず社員全員にヒアリングをし今の状況を把握した上で、組織の変更、社員の席替えやコミュニケーション方法の改善などを行います。すると会社に潜む問題が浮かび上がりそれを解決することで、出社拒否の原因が無くなり離職率も減って生産性が上がる、という好循環が生まれます。これは実際に成果が出て会社からも感謝されています。様々な角度から丁寧に取り組み解決に導いていて、素晴らしい活動だと感じました。いろいろな会社に取り入れてもらいたい療法です。』皆さんにとって心理学とは? 『心理学を学んでいて一番嬉しかったのは、誰も悪くないということを知ったこと。自分の

未来に希望が持てなくなる、それが『病む』ということです。目の前にいる方に希望を持たせて笑顔で帰ってあげることが出来るれば、流れが変わります。その方の行動が変わり、行動が変われば結果が変わります。私達は依頼者様の流れを変えるお手伝いをする、幸せなお仕事をさせていただいております。』
 『今後の活動
 『いま『セックスセラピー』という活動を始めたところで、これを進めていくつもりです。中高年の方や施設で認知症を患った方の性の問題、LGBT(性的少数者)の問題などどう対処し解決していくかを考えます。』
 最後に岩崎理事長が語りました。『自分の未来を自分の力で進んで行くことに勇気を持ってほしいのです。私達のカウンセリングや研修がその第一歩になるよう、広く社会のお役に立ちたいと思います。』

(訪問者 架け橋 吉井)



NPO**訪問記**

地域の方々と共に子ども達を 暖かく見守る保育を

認定NPO法人
はらっぱ
理事長 前田 公美

連絡先
〒662-0852 西宮市中殿町6番32
TEL: 0798-22-3561
Mail: npo-harappa@hcc1.bai.ne.jp
URL: http://npo-harappa.hiho.jp/

2018年に認定NPO法人となり、保育所を基盤とした子育ての支援や地域社会作りに貢献。

「はらっぱ」の歴史

「始まりは、1979年4月に個人の家の一階で運営する保育所からでした」理事長の前田さんにこれまでを伺いました。89年に現在地の2階建て一軒家を借りて引っ越し、95年の阪神淡路大震災で建物が全壊の被害にあいましたが、三ヶ月後にプレハブ園舎を建設し、2001年には保育所の活動をより強固に広範なものにするためにNPO法人格を取得しました。その後14年に西宮市のグループ型小規模保育事業の制度がスタートしたのに伴い、市からの補助金を受けて「小さなはらっぱ」を併設運営しました。その1年後に国の子ども・子育て支援新制度がスタートし、4月に西宮市から小規模保育事業の認可を受け、国・県・市からの補助金を受け、運営できるようにしました。

18年8月には認定NPO法人になりました。《認定》となったことで当法人への寄付



は税制優遇が受けられ、援助を寄せている保護者や地域の方々、多くの関係者に対して恩返しができるようになった、とのこと。

―大所帯の家族のように―

約40名の子ども全員が、自由に身体を使つてのびのびと遊ぶことが基本。0歳〜5歳児の子ども達が兄弟のように一緒に過ごしています。赤ちゃんクラス、幼児クラス等と分けるのではなく大きな家族のように一緒に過ごしています。特に子どもの身体作りの為に食べ物にはこだわり、無農薬のお米や野菜を使い無添加の調味料で食事を作っています。担任制ではなく毎日に担当を決めて、全員が子ども達を見て園の全ての子ども達を把握し見守り保育しています。大所帯の家族のような印象で、子ども達がとても生き生きとしていました。

―今、取り組んでいること―

「これまで援助してくださった方々のお陰で子ども達の場所が確保できたことに感謝し、地域の方々に恩返しをしていきたいと思っています。」とのこと。毎週土曜日には「オーブンのはらっぱ」と呼んで、園を自由に地域の子どもの遊び場や親御さん達の子育て相談

の場として開放しています。その中でも年に3回開催するバザーは大人気で、みんなが楽しみにしているイベントです。



―「みやるべ」をご覧の皆様へ―

「社会全体で子どもを育ててほしい、もっと寛容であってほしいと思います。子ども達は賑やかなものですけど、その賑やかさを楽しんでほしいと思います。子ども達がリラックスして生き生きと成長し、保護者の方も安心して子どもを育てることができ、地域の方々も子育て中の親御さん達を支えてあげるような優しいまなざしを送ってほしいと思います。2018年には設立から39周年になり感謝をこめて『はらっぱ感謝祭』を11月に開催しました。イベントありご飯ありマーケットありたくさんの方に喜んでいただけました。2019年は40周年。これからも地域の皆さんに感謝の気持ちを少しでも還元していけるように頑張っていこうと思います。」

(訪問者 架け橋 吉井)

NPO法人

ペット・フォー・ライフ・ジャパン(PFLJ)

事務局長 石本 理佐子

行き場を失った犬・猫の新しい飼い主探し支援や
飼育放棄を未然に防ぐための啓発活動を実施

連絡先

〒663-8006 西宮市段上町 7-1-35 松本ビル 1F

TEL・FAX : 0798-57-3717

Mail : wag@pflj.org

URL : <http://www.pflj.org>

住宅地の真ん中、段上小学校のすぐ横の事務所。事務局長の石本理佐子さんにお話を伺いました。

―事務所では―

「ペット・フォー・ライフ・ジャパン」(PFLJ)は、行き場を失った犬や猫の新しい飼い主を探したり、犬のしつけ教室や保育園を運営したりするNPO法人です。2001年にNPO法人認証を受け、来年で設立20周年を迎えます。

事務所は3階建のビルの一階で、フロアリングのフロアが仕切られ、ワンちゃんたちがゆったりと過ごしています。この日は全部で何匹のワンちゃんかたのてしょう？大きなサークルの中で戯れる3匹のワンちゃん。お腹を上に向けて寝ころび、歯磨きをしてもらっているワンちゃん。奥の部屋では、トリミングが終わってドライヤーでブローしてもらっているワンちゃん。10匹以上のワンちゃんかたのてですが、それが分からないくらい、みんなとても賢く、静かに過ごしていました。



―人と暮らす選択肢を増やす―

ここでは、犬同士の社会性・人と人間の社会性を大切にしており、そのための訓練を受けて生活しています。「鳴き声や臭いで周りに迷惑をかけない。人が来ても無駄吠えせず、リラククスして生活できるよう心掛けています。ご近所の方にも理解して頂きたいので」と語っていました。

最近、聴覚障害者の生活を助ける聴導犬(生活に必要な音をタッチして教える音源に導く補助犬)の育成にも取り組まれています。行き場を失った犬に「人と暮らす選択肢を増やしてあげたい」という願いからの取り組みです。本来は生後2か月から4か月で聴導犬の特性を持った子犬を訓練するのですが、保護犬の場合は成犬でも適性があれば訓練するそうです。

―すべての命に優しい社会を目指して―
設立の経緯を聞いて驚きました。子どものいじめや虐待をな

くすために、小さな命に目を向けたのが契機です。手を差し伸べてもらえない動物に目を向け、優しい気持ち育て、誰もが安心して暮らせる社会を目指して、数人のスタッフからスタートしたそうです。

今では、250名ほどボランティアが登録されています。その方々がお世話を手伝ったり、保護犬を預かって散歩をしたり、家庭での生活に慣れるための練習を担ってくれています。

小学校の命の授業の開催や、高齢者施設で訓練された犬と接することで心と体の健康に貢献する活動(ドクタードッグ活動)にも力を入れています。

また利用者のニーズに応えるためもっと広い場所に移転を考えているそうです。山奥などではなく市街地を希望されています。「街中で生活することで、行きかう人や車にも慣れ、飼い主さんや近所さんという関係を築き、末永く幸せに暮らせるように」という願いが込められています。

HPやSNS発信にも力を入れています。ぜひ覗いてみてください。動物にも人にも優しい社会、すべての命に優しい社会を築いていけたらいいなという思いを抱いて、事務所を後にしました。

(訪問者 TOPO 田中)

アフター還暦の人生を豊かに生きよう！

N P O
訪問記

2019年に第6回を迎える「西宮っ子還暦式」は
浜甲子園中学の同窓会から始まりました。



西宮っ子還暦式運営協議会

会長 妹尾 和江

連絡先
〒663-8136 西宮市笠屋町11-3
TEL: 0798-55-7687(平日9:30-17:00)
Mail: info@nishinomiyaikko.com



—60歳は還暦
昔こんな歌がありました♪
村の渡しの船頭さんは今年六十のおじいさん♪昭和16年の歌です。かつて60歳はおじいさんだったのです。
当時の平均寿命は60歳足らずでしたが、いまや80歳を越え還暦後20年以上のセカンドライフ。アラ還というキーワードも日々耳にし珍しくもなくなった感じがしますが、思いを新たに60歳です。65歳から前期高齢者と呼ばれますが時代に合わなくなったとの声も。
—54歳の同窓会で6年後は還暦同窓会を
浜甲子園中学校4期生同窓会幹事で協議会事務局の深川さんにお話を伺いました。
始まりは平成19年浜甲中4期生同窓会幹事会、昭和28年生まれの54歳になる昔の中学生達が「次は6年後の還暦同窓

会を市内の全中学校合同でやる」と話が盛り上がりました。
—長崎県佐世保市で合同還暦式前例が
合同還暦同窓会をそろそろ準備しようと全国の例を調べたら、昭和22年生まれ昭和38年卒業佐世保市内中学校連合同期会が奇しくも平成19年に開催したことを知り、有志で訪問、大歓迎を受け交流が始まりアドバイスを頂いたとか。
—文教住宅都市宣言50周年記念事業に
当初より西宮市との協働を視野に入れていました。河野市長(当時)との懇談が実現し、市の協力が得られました。
平成21年から4年間の準備、構想6年を経て平成25年9月21日に、鳴尾浜の兵庫県立総合体育館で第1回を開催。集まったのは昭和28年に生まれ市内の中学校を昭和44年に卒業し還暦を迎えた仲間たち360人。
—還暦式の目的
還暦を迎えるにあたり一堂に会して祝い、この西宮っ子還暦式を機にゆかりのある西宮で、
①第二の人生を語り合おう
②多感な時代をもう一度共有しよう
③みんなでスクラムを組もう
—新たなメンバーが次々に、そして一般市民も

—西宮っ子還暦式の目指すもの
西宮っ子還暦式は西宮で育った方々、在住されている方々が、これを契機に以後のセカンドライフをより豊かにしていただくことを目指しています。このため、趣味による仲間創りのための「西宮っ子倶楽部」の運営や、シニアを対象とする集いの場「しゃべりBAL」の開催などに取り組んでいます。
(訪問者 兵庫県障害者タンデムサイクリング協会 横井)

第一回の大成功に感激し気を良くした仲間たちが引き続き運営協議会を結成、サポート体制が整い、新たに還暦を迎える現役組が実行委員となつて共に還暦式の計画を立てます。古参組の年齢は上がりませんが、新規メンバーが増えるので80歳になつても運営に係わるかもと協議会の声。
中学校の同窓会から始まった還暦式。一般市民もたくさん参加できるよう、企画を充実していこうとしています。



私たちはアメリカンフットボールを起点とし、そこから発展するスポーツ文化活動を通じて地域社会に貢献します。

NPO

訪問記



NPO 法人

西宮フットボールクラブ(NFC)

理事長 上山 竜生

BRUINS



連絡先
〒662-0917 西宮市与古道町3-14南ビル202号
TEL: 0798-33-8213 FAX: 0798-33-8213
Mail: n.f.c@ion.ocn.ne.jp
URL: https://nishinomiyafutbolclub.org

- ①地域住民が自ら“体験する”、“観る”、“支える”という行為を通じて地域社会のコミュニケーション強化に貢献します。
- ②地域住民の健康的で明るいオシャレな生活の実現に貢献します。
- ③地域住民とファンと共に歩み、必要とされ且つ愛されるスポーツクラブチームで在り続けます。
- ④地域社会のリーダーとなる人材を育成します。
- ⑤アメリカンフットボールの普及発展に貢献するとともに、スポーツ全般の普及発展に貢献します。

—西宮フットボールクラブの誕生

「西宮フットボールクラブ」(NFC)とは、元々阪急グループ企業内のアメリカンフットボールチームがアメフトのメッカ・西宮球場(今は阪急西宮ガーデンズになっている)を拠点に活動していたのを2012年4月に地域密着との観点からNPO法人化したもので、最初に社会人チーム「西宮ブルーインズ」が発足しました。

現在NFCは、アメリカンフットボール社会人チームの「西宮ブルーインズ」、社会人チャリティーの「西宮ブラチナムブルーインズ」、小中学生のタッチフットボールチームの「西宮ジュニアブルーインズ」、小学生のチャリティーの「西宮スウィートブルーインズ」で構成されています。



—フットボールの普及へ

また小学生を対象にしたフットボールの普及へ

及にも力を入れていきます。フットボールはアメリカンフットボールよりやや小ぶりのボールを使用します。また、アメフトのタックルの代わりに、相手の腰のフットボールを取り入れます。鬼ごっこの要素を取り入れながらみんなで戦略を考え、フィールドにいるのは5名ですが全員が役割を持ち、競技を行います。交代自由なため何名でも楽しめ、終わった後達成感が味わえる競技とのことです。危険が少ないので女子も十分参加できます。

—タッチフットボールの観戦
11月の晴れた日、エキスポ・フラッシュフィールドで行われたジュニア(小学生チーム)のタッチフットボールの試合を見せてもらいました。アメフトのタックルの代わりに、タッチフットボールは両手でタッチする形になっていて、その他のルールは、ほぼアメフトと同じです。見せてもらった試合では、小学生ながらヘルメット・防具もアメフトと同じでカッコよかったです。女子選手もいて、大活躍でした。ハーフタイムには「西宮スウィートブルーインズ」(小学生のチャリティー)のハーフタイムショーもあり、盛り上げていました。NFCが単にアメフトのチームにとどまることなく、アメフト底辺の拡大に努めているのが感じられました。



—今後の抱負

アメリカンフットボールにとって、西宮は特別な地域です。12月には大学日本一を決める「甲子園ボウル」が甲子園球場で行われるため、市民のアメフトへの関心は他の地域より圧倒的に高いとのこと。

今後、4つのユニットとフットボールを通じて、アメリカンフットボールの普及に尽力したいとのことでした。

(訪問者 西宮市マシオン管理組合ネットワーク 広尾)

阪神淡路大震災の 地滑り跡地を美しく



ボランティアグループ
「ゆりの会」
代表 大野 七郎

連絡先
〒662-0815 西宮市仁川百合野町9-23
TEL・FAX: 0798-53-2251
Mail: s-ohno-7@ares.eonet.ne.jp

1995年1月に発生した阪神淡路大震災から、はや23年が経過しました。ボランティアグループ「ゆりの会」は、このときの地滑りの跡地でシバザクラや花木の花園「ゆりのガーデン」を維持、管理しています。

―発足の経緯―

阪神淡路大震災では、仁川上流地域も大規模な地滑りが発生し、34人の生命が失われ、家屋も多数流出しました。その地滑りの跡地(仁川左岸)で地域の住民が「多くの知人がなくなつた場所。雑草に覆われるのは忍びない。花を植えよう」とコスモスなどの花木を植え始めました。2002年に慰霊コンサートを始めるにあたり「遺族に寂しい思いをさせたくない」と、地域の資源ごみ回収グループが中心となり、仁川右



岸の現在の土地(地すべり資料館)の奥にシバザクラを植えたことを機に緑化活動に励んでいます。

―現在の活動―

2011年度には地道な活動が評価され、国の土砂災害防止功労者に他の8団体とともに選ばれ、国土交通大臣表彰を受けました。また



2015年には、兵庫県から美しい郷土づくりに貢献したとして「くすのき賞」を受賞しました。

現在80名が会員登録し、うち常時活動しているのは約20名です。毎月第一日曜日と毎週火曜日・土曜日の午前中に「ゆりのガーデン」を維持管理して震災を風化させることなく災害に備えるほか、廃品回収などの活動を通じて人々の絆を深め、次世代に引き継げる街づくりを

目指して活動しています。

毎年4月にはお世話しているシバザクラ1万株が見ごろで、高さ約16メートル、幅約80メートルにわたって一面がピンク色に染まり、この様子は西宮の切手にもなりました。

―今後の課題―

代表の大野さんからは「多くのボランティアがこの活動を知って共感して、一緒になって参加してくれて、この会の活動を継続させていきたい。」とお伺いしました。

会員の高齢化により広い斜面の手入れは大変ですが、このような活動を通じて地域住民の絆を一層強めていきたいと思っています。このため、多くの人が参加しやすいイベントを考えていきたい、また水やりをしてくれた人にプレゼントを用意することなどを考えています。

(訪問者 ふるさとひょうご 創生塾阪神マイスターズ

三戸)



● みやしるべ バックナンバー紹介



みやしるべ 創刊号 (平成27年3月15日発行)

●啓発事業実行委員会 委員長 挨拶

●NPO訪問記

(掲載団体：6団体)

グラスルーツ/ころこ・からだ研究所/ツーリズム西宮楽しく探見隊/
西宮市マンション管理組合ネットワーク/
兵庫県障害者タンデムサイクリング協会

※2019年1月1日までに解散した団体は除く。



みやしるべ 第2号 (平成28年3月1日発行)

●啓発事業実行委員会 委員長 挨拶

●NPO訪問記

(掲載団体：11団体)

ダイヤモンドクロス/あんずぼこ/ひょうご新林家21
関西トータルヘルスサポートセンター/西宮くぐつ座/
兵庫介助犬協会/素人落語我楽多の会/STEP BY STEP/
なごみ/アマモ種子バンク/兵庫県地球温暖化防止活動推進員西宮支部



みやしるべ 第3号 (平成29年3月1日発行)

●特集 NPOって何? 学生たちと座談会開催!

●NPO訪問記

(掲載団体：12団体)

ころこアートコミュニケーション/サポートステーションFlat/
市民オンブス西宮/すこやか女性プロジェクト/Namee/
西宮お手玉の会/new-look/阪神つばめ学習会/
阪神パソコンネット/兵庫県不動産コンサルティング協会/
みやっこサポート ※2019年1月1日までに解散した団体は除く。



みやしるべ 第4号 (平成30年3月1日発行)

●特集 \みやたんととの対談/「西宮のNPOは楽しいね!」

●NPO訪問記

(掲載団体：8団体)

海浜の自然環境を守る会/支援の会ひまわり/
障害者生活支援センター遊び雲/TOPO/
NiCCCL西宮暮らしやすい地域をめざす会/日越親善協会/
阪神文化財建造物研究会/武庫川スポーツクラブ

- バックナンバー(PDF)は、西宮市のホームページからいつでも閲覧できます。
西宮市HPトップページ▶市政情報▶参画と協働・市民活動▶コミュニティ・自治会・NPO▶
NPOと行政との協働会議・NPO等公益活動市民団体啓発事業
- 西宮市市民交流センター(西宮市高松町20-20)では、バックナンバー(紙面)を配架しています。

みやしるべ

ちょっと寄ってこいことあるかも♪
NPOフェスティバル
2019 会場無料

2019.3.23 (土) 10:00 ~ 16:00

場所：西宮市市民交流センター

今年は
屋内だよ!

おいしい食べ物で
ひと休み!!

スペシャルゲスト



落語家
桂吉の丞
演目：当日のお楽しみ



ドラッグクイーン
リル・グランピッチ
講演：私とあなたの「普通」は違う。
それを、私たちの「普通」にしよう。



西宮市市民交流センターへのアクセス

西宮市市民交流センター
西宮市高松町 20-20

阪急西宮北口駅から徒歩約3分
阪急西宮北口駅下車→東改札口を出て東側へ
→但馬銀行北側の通りを東に約300m直進

駐車場はございません。
駐輪場はご利用いただけます。



お問合せ：NPO等公益活動市民団体啓発事業実行委員会事務局（西宮市市民交流センター内）
TEL 0798-65-2251 E-mail info@shimin-koryu.net

主催：西宮市、NPO等公益活動市民団体啓発事業実行委員会 協力：さくら FM78.7MHz



今回『みやしるべ』に取材協力いただいた団体及び
取材協力の申し出をされていた団体の皆様へ

今回『みやしるべ』第5号の訪問取材に、お忙しいにもかかわらず気持ちよくご協力いただいた団体の皆様、誠にありがとうございました。また当初より取材協力のお申し出をいただきながら、残念ながら訪問が叶わなかった団体の皆様には、お詫び申し上げますと共に諸事情にご理解のほどお願い申し上げます。次の第6号ではさらに多くの団体を紹介して参ります。どうぞご期待ください。

《本誌は、西宮市のNPO等公益活動市民団体啓発事業実行委員会の広報部会メンバーにより作成されました》
NPO法人障害者生活支援センター遊び雲：廣田、NPO法人架け橋：吉井、NPO法人TOPO：田中、NPO法人西宮市マンション管理組合ネットワーク：広尾、NPO法人兵庫県障害者タンドムサイクリング協会：横井、NPO法人コミュニティ事業支援ネット：柏本、ふるさとひょうご創生塾阪神マイスターズ：三戸、NPO法人武庫川スポーツクラブ：白石（編集責任者）